

猪名川町の地名あれこれ



皆さんは、猪名川町に変わった地名や珍しい読み方の地名がたくさんあることをご存知ですか？
町内には大字地名が39、小字地名は1200以上あります。いつからともなく付いた地名、地名には、その土地の歴史や特徴の一端が秘められています。
今回は、町史をひもとき、町内の地名についてそのいわれや背景を調べてみました。



猪名川の名はどこから？

猪名川町の町名は、町の中央を流れる猪名川から名づけられたもので、昭和30年、中谷村と六瀬村が合併した際、一般公募により選ばれました。猪名川は、奈良時代前期に書かれた「住吉大社神代記」に「為奈川」と記載されており



▲木津にある天澤寺は、楊津院の跡と伝えられています

地名にまつわる伝説や歴史

町内に「平井」とはかつて「為奈部（イナベ）」という木工に携わった人々の集団の名に由来すると考えられています。当時、山で切った木材は川に流され、下流に住む為奈部が加工し宮中に収めました。その為奈部が住む所に流れる川を「為奈川」と呼ぶようになったのです。木工集団「為奈部（猪名部）」が猪名川という河川名、ひいては町名の起源となったと考えられています。

町内に多い「平井」と「垣内」

町内には同じ小字地名、または同じ語を含む小字地名がいくつかあります。仁頂寺地区や猪瀬地区など

地名に残る銀山の賑わい

猪名川町の歴史は多田銀銅山においては語れず、それは

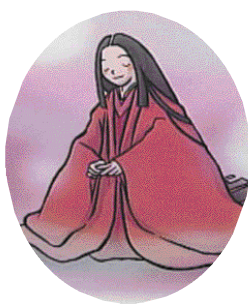
町内に「平井」が5カ所、肝川地区の「牛ガ平井」、槻並地区の「岩ガ平井」など、「平井」を含む小字地名が13カ所あります。「平井」とは、傾斜地の上に造られた住居の意味で、山間部に位置する猪名川町の地形の特徴が表われた地名です。

今はなき地名 楊津（やないづ）

奈良時代には、現在の猪名川町のほぼ一帯が楊津郷と呼ばれていました。「楊」は猫柳、「津」は一般的に港を意味し、猫柳が群生していた木材の集散地であったと思われる。また、地名と同じ名前

佐保姫の悲しい物語

万善地区の「佐保姫」には、地名の由来にまつわる話があります。今から約400年前の戦国時代、木津の三蔵山の城に預けられていた明智光秀の娘佐保姫と、篠山の八上城城主波多野秀治の息子貞行は恋に落ち、結婚の約束をしていました。ところが、光秀の主君、織田信長は光秀に八上



は泣く泣く別れ、いずこともなく消えて行きました。その後、姫の住む城も落城し、姫は目の前を流れる猪名川に身を投げたということです。それから地名は「佐保姫」となり、姫が入水したところを「姫ヶ淵」と呼ばれるようになったといわれています。

条里制、荘園制の名残

清水地区に「八ノ坪」、南田原地区に「泓ノ坪」など条里制の名残と思われる地名が残っています。条里制とは、7〜8世紀頃、税の徴収のために全国的に行った土地区画制のことで、この「坪」は1町四方の面積の区画を言います。



地名の由来を詳しく調べるため、図書館で町史を読んだり資料を調べたり、一足先に読書の秋を味わいました。また、ふるさと館や地元史に詳しい人にも話をうかがい

江戸時代の文書には「夕田」ともありますが、「結」にちなむという説が一般的です。「結」とは「田植えなどの時に互いに力を貸すこと」、または「共同労働」のことで、共同で開いた田んぼのことを「ユイ田」、漢字で「結（ユフ）田」。



遠い昔に生まれた地名のもつ意味の奥深さを知りました。近年、各地で市町村の合併や、地域の整備が行われた結果、なくなる地名が数多くあります。由緒ある地名がなくなることはとても惜しいことだと思いました。

【いながわ特派員】

どうしてついたの？いろいろな地名

中谷 東谷（川西市）と西谷（宝塚市）の真中に位置する	しじゅうそう 四十僧（肝川） 多田院関係の僧侶が多く住んでいた																
きょうてん 京田（差組） 平安京の直轄の田をいう	つぐみ 槻並 ケヤキ（槻）が群生していた																
こもお 木間生 薦生（コモフ）の変化した地名。ムシロの原料である真薦（マコモ）の産地をいう	なんとなつむでしやう <table border="1"> <tr> <td>柏梨田</td> <td>カシウダ</td> </tr> <tr> <td>百町（柏梨田）</td> <td>ヒャクマイチ</td> </tr> <tr> <td>泓ノ坪（南田原）</td> <td>フケノツボ</td> </tr> <tr> <td>火燈山（紫合）</td> <td>ヒトボシヤマ</td> </tr> <tr> <td>犀脾裸（内馬場）</td> <td>サイガハダ</td> </tr> <tr> <td>角力場（上野）</td> <td>スモウバ</td> </tr> <tr> <td>百々（広根）</td> <td>ドン</td> </tr> <tr> <td>柘鳴美（島）</td> <td>ジャクナミ</td> </tr> </table>	柏梨田	カシウダ	百町（柏梨田）	ヒャクマイチ	泓ノ坪（南田原）	フケノツボ	火燈山（紫合）	ヒトボシヤマ	犀脾裸（内馬場）	サイガハダ	角力場（上野）	スモウバ	百々（広根）	ドン	柘鳴美（島）	ジャクナミ
柏梨田	カシウダ																
百町（柏梨田）	ヒャクマイチ																
泓ノ坪（南田原）	フケノツボ																
火燈山（紫合）	ヒトボシヤマ																
犀脾裸（内馬場）	サイガハダ																
角力場（上野）	スモウバ																
百々（広根）	ドン																
柘鳴美（島）	ジャクナミ																
広根 広く栄えて根を張るようという、住む人の願いが表れている																	



▲今も残る条里制区画の田（北田原地区）

城を攻めるように命令し、城を落城させました。貞行は辛くも城を逃れましたが、姫と

紫合地区や北田原地区などには現在もその土地区画のまま水田が分布している所もあり、猪名川町も律令国家の支配下にあったことがうかがえます。

また、北田原地区の「ツク田」は「佃」からきており、荘園領主直営の良田を意味し、荘園制の名残と考えられます。

これがいつの頃からか「紫合」の字を当てるようになったようです。また、西鏡寺にあった老松に常に紫色の雲が漂い、「紫雲の松」と呼ばれたことによるという伝承もあります。神戸市垂水区神出町にも同じ地名があります。